

## 蒲生干潟の植物⑳

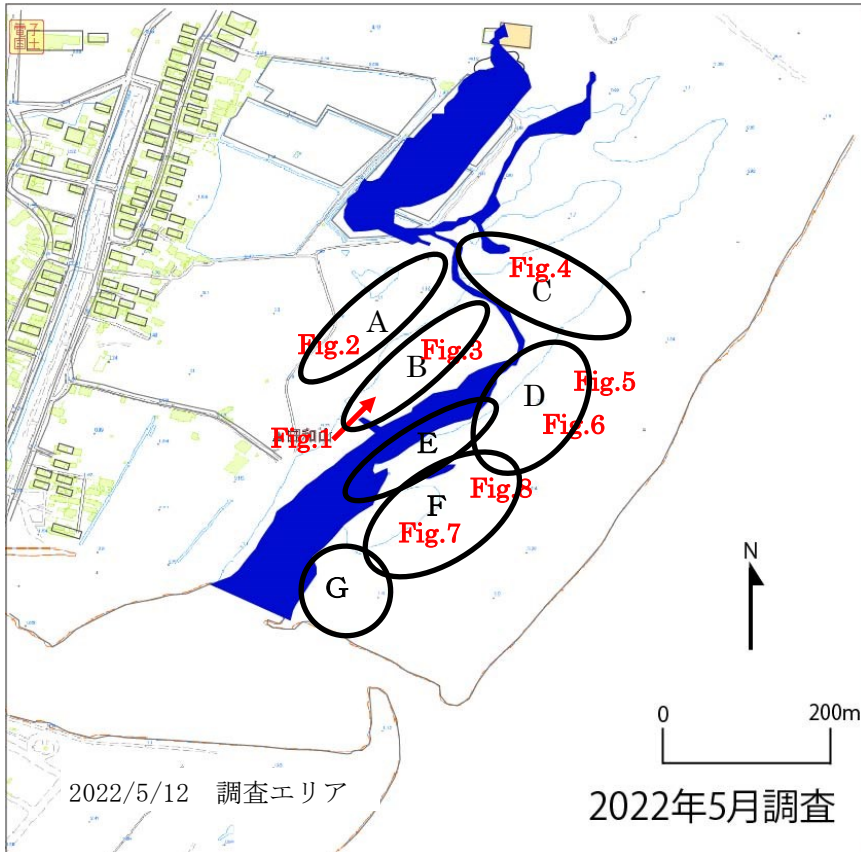


Fig.1 エリアBを南東側から撮影

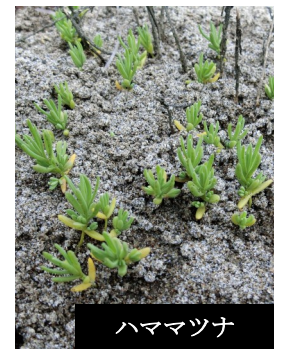


Fig.2 エリアAで撮影

Fig.3 エリアBで撮影

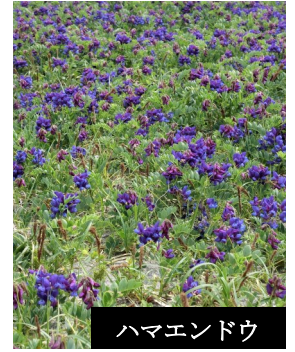


Fig.4 エリアCで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアDで撮影

Fig.7 エリアFで撮影

Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2022年5月12日（木）10:30～12:00，天気：晴れ

定点観測では、ハママツナが次第に大きくなり、遠目でも緑色が見えるようになった。また、立ち枯れた個体は徐々に少なくなり、地面の露出も目立つようになった（Fig.1）。エリアAに広がるヨシは80cm～100cmほどに成長していた。1ヶ月間での大きな伸長が見られた（Fig.2）。エリアBのハママツナは点在しているものもあれば群生しているものもあった（Fig.3）。エリアCにシオクグが群生していた。背丈は30cmほどで新しい穂が見られた（Fig.4）。エリアC～Gの地表面には、ハマニガナの葉が見られるが、エリアDの一部で花が咲いているのが見られた。これから徐々に開花するものと思われる（Fig.5）。エリアD～Gの広い範囲にコウボウシバが地面を覆い尽くし、所々にコウボウムギが散生または群生して生育していた。コウボウシバ、コウボウムギ共に新しい穂が確認できた（Fig.6, 7）。エリアFでは、ハマエンドウが群生しているのが確認できた。昨年よりも広範囲に広がっており、紫色の花が満開を迎えていた（Fig.8）。また、ハマヒルガオの葉も確認できた。例年、ハマエンドウの花が終わった後にハマヒルガオが成長し開花するので、これから葉の数も増え大きくなっていくことが期待される。

（宮崎佳彦）